

第202回史跡ウォーク

久世・久我の鎮守さまを巡る

チーム葵

今回の史跡ウォークは、京都市南部、桂川西岸の久世から久我（こが）周辺の鎮守さまを巡ります。

祇園祭駒形稚児で有名な「綾戸國中神社」だけでなく、今では住宅地や工業団地となった中に少し小さくなった鎮守の森があり、ひっそりと鎮守さまがいらつしやいました。それらの鎮守さまが大きな森の中にいらつしやった頃を想像しながら巡りたいと思います。少し長くなりますが、ぜひご参加ください。

●実施日 3月16日（日）

●受付時間 午前9時～9時30分

●所要時間 3時間程度

●集合場所 JR桂川駅東口前

●コース ①大神宮→②（指差）蔵王堂光福寺→③綾戸國中神社→④嚴嵩神社→⑤木下神社→⑥菱妻神社（久世）→⑦久世工業団地→⑧菱妻神社（久我）→⑨久我大臣之墓→⑩久我神社→⑪神川神社（解散）→⑫（おまけ）誕生寺

※チーム葵の会員は午前8時に、他チームの会員は午前8時30分に集合してください。



久我大臣之墓

氏神・鎮守・産土の神とは？

チーム葵 辻横修造

いずれも神社信仰の一形態を示すもので、現在ではほぼ同義のものとして信仰されていますが、もともとは違うものでした。先祖代々、一定の地域に住み続けている人の中には、この三つが同じ神社という場合もありますが、たいていの人たちはバラバラで、厳密な意味での氏神を捜すことが難しくなっています。《氏神》 氏というのは、古代の生活単位としての氏族を意味しました。必ずしも血縁者だけで成立していたわけではなく、共通の氏神を先祖として意識する集団でした。すなわち、氏神というのは共通の祖先神を仰ぐ生活共同体の守り神でした。ちなみに、ウチというコトバは「ウチ」（内）から発した語で、ここには地・血・霊を共有する意識がありました。次の四つのパターンに分類できます。

① 氏の祖先神

たとえば、藤原氏の祖の天児屋根命。忌部氏の祖の天太王命。阿曇連の祖の綿津見神。なお、嵯峨天皇の勅によつて古代の諸氏（千百八十二氏）の系譜を集成した古代の姓氏事典である『新撰姓氏録』を見ると、かなりの氏について祖神を特定することが可能です。

② 直接の祖神ではないものの、氏に由緒ある神。たとえば、藤原氏の鹿島・香取の神。源氏の八幡神。平氏の厳島の神。

③ 産土の神と鎮守が混合したもの。出身地に住み続けている場合など。

④ 氏神・鎮守・産土の神の混合状態。三つの

違いがわからなくなり、同義のものとして信仰している場合。現在では、これが最も多い。

《鎮守》 一定の地域を守護する神を祀る社で、一国の場合は諸国一の宮があてられます。その他、王城・城内・寺院などの鎮守神もあります。一般には、ある地域に住む人民を守護する神と考えられています。

《産土》 祖先あるいは自分の出身地に対して、特別の思い入れとか出自意識をもって、その土地の神様が自分の運命を左右しているものとして信仰する神。ウブスナの語源については多く説がありますが、民俗学の観点からみると、妊婦が産小屋で立ち産をしたとき、赤ちゃんに付着した砂という説が興味深い。

氏神・鎮守・産土の区別がつかなくなったのは、古代国家の衰退にともない、その鎮座する土地の住民の協力を必要としたからです。しかも、その土地で亡くなった人の霊魂は浄化されてゆく過程で、その土地神に吸収されていく。だから、何代もその土地に住みつづけていくと、三つの区別は次第に合一化していきます。そして、村落共同体が崩壊した今日、言葉の正しい意味での、これら三つの区別がほとんど解体されたといえます。

【出典・神道神祇本廳ホームページ】

おまけ

